



帯 広 畜 産 大 学

プレス発表資料

OBIHIRO UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND VETERINARY MEDICINE

令和7年6月11日

報道関係者各位

国立大学法人北海道国立大学機構
帯広畜産大学

日本初となる顕微授精により誕生した仔馬の公開について

令和7年6月18日(水)に帯広畜産大学馬介在活動室において、「日本初となる馬卵子の体外成熟・顕微授精・体外培養胚の移植により誕生した仔馬」の公開見学会を開催します。周知及び当日の取材について、よろしくお願い申し上げます。

なお、取材いただける場合は、6月17日(火)17時までに会社名、担当者名、参加人数を下記連絡先へメールにてお知らせくださいますようお願いいたします

記

1. 日 時：令和7年6月18日(水) 13:30

2. 場 所：帯広畜産大学 馬介在活動室（別紙案内図を参照ください。）

※なお、仔馬の体調により、風邪などで安静が必要と判断された場合には、本見学会を中止させていただくことがございます。あらかじめご了承ください。

【お問い合わせ先】

帯広畜産大学

研究支援課研究支援係長 此川

T E L : 0155-49-5312

E-mail: shien@obihiro.ac.jp

※可能な限りメールでのご連絡をお願いいたします。

【概要】

帯広畜産大学の南保泰雄教授、羽田真悟准教授、渡部浩之准教授による共同研究では、生体卵巣から吸引した馬卵子の体外成熟・顕微授精・体外培養胚の移植技術による国内で初めての仔馬（北海道和種馬卵子にコネマラポニー精子を顕微授精）が誕生しましたのでご報告します。

国内に存在する日本在来馬は、馬の飼養頭数の3%以下となり、さらに飼養頭数が減少しており、なかには登録頭数が50頭を切っている品種も存在します。これら日本在来馬の飼養頭数を増加させるためには、飼養環境の整備や観光への相互利用、多様な利活用の創出などの努力に加え、家畜の生産繁殖技術の向上が必要となります。ヒトの不妊治療で実施されている顕微授精などの生殖補助医療技術の利用は、軽種馬登録が必要なサラブレッド種では禁止されていることから、これまで日本での実施例、成功例がなく、また生馬の卵巣から卵子を採取する医療技術の開発も実施されていませんでした。帯広畜産大学では、2024年より、北海道和種馬およびその交雑種馬の生体卵巣より卵子を吸引する技術（Ovum pick up; OPU）を試み、成熟途上にある卵子を体外で培養し、顕微鏡下で、ホースセラピーに適している体型と考えられるコネマラポニーの凍結精子を卵子に注入する技術（Intra-cytoplasmic sperm injection; ICSI）技術を確立しました。さらに細胞分裂を開始した受精卵を胚盤胞ステージまで1週間かけて培養し、凍結保存しました。その後、代理母馬の発情周期に合わせて体外培養胚を融解し、移植した3頭のうちの1頭の妊娠を確認しました。そして、2025年6月4日23:30ついに牝馬を出産、“日本初となる顕微授精による仔馬”が誕生しました。

帯広畜産大学では、これまでに、馬の受精卵移植、受精卵と凍結保存技術、受精卵の遠隔輸送技術等について研究を重ね、子馬の誕生に至っています。希少な日本在来馬の保存と効率生産と馬受精卵移植法の普及と定着を目指す本学にとって、今回の成果は、さらに次世代型の生殖補助医療となり、日本在来馬の保存や、ホースセラピーに適した馬の生産増加がさらに期待されます。

顕微授精により誕生した仔馬の成功例は、国内においても初めての成果となります。

本研究は、令和5－7年度日本中央競馬会特別振興資金助成事業「体外受精等次世代型の日本在来馬生産法確立事業」として実施されています。



代理母となった小星出産直後の様子



卵子を提供した「白雪」
（登録名花風、北海道和種）

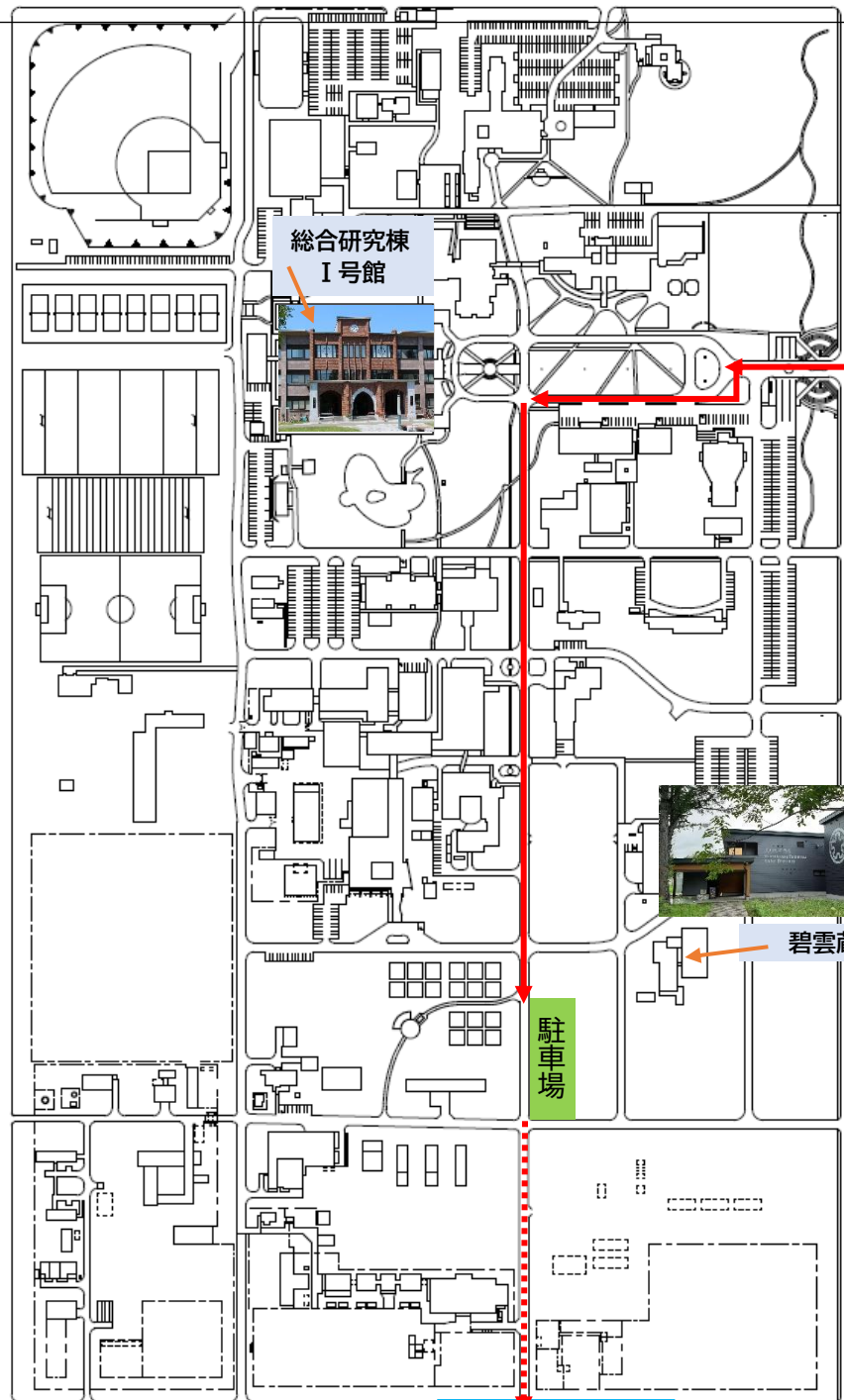
帯広畜産大学馬介在活動室 案内図



▲Google Map
(帯広畜産大学)

住所:北海道帯広市稲田町西2線11番地

アクセスマップ



出入口
(正門)



碧雲蔵

駐車場

会場